能 眞双会

第52回 能と狂言の鑑賞会

須磨夢幻

SUMA MUGEN

vol.2

お話　須磨の浦に去来するもの　林　望

狂言　薩摩守（さつまのかみ）　野村　万作　野村　萬斎

能　玄象（げんじょう）　坂　真太郎

令和7年 10月4日(土) 午後1時開演　千駄ヶ谷 国立能楽堂

Photo：『玄象』観世喜正／撮影：青木信二

第五十二回　能と狂言の鑑賞会

須磨夢幻 vol.2

今年、五十二回目を迎える当会では、能『玄象』を中心に、須磨（兵庫県神戸市）に因んだ作品を集め、『須磨夢幻』と題してご覧頂きます。

狂言　**薩摩守**　さつまのかみ

旅の僧は、住吉・天王寺参詣の道中、茶屋に立ち寄ります。僧が代金を払わずに行こうとするのを咎めた茶屋は、僧が無一文だと知り、この先の神崎の渡しで、船に只で乗れる秀句（洒落）を教えます。船に乗った僧は船頭に船賃を要求され、秀句を言って済ませますが…。今回は船頭と僧を両シテとして上演します。

能　**玄象**　げんじょう

琵琶の名手・藤原師長（もろなが）は、唐に渡って琵琶の奥義を究めようと志し、途中、須磨の浦で潮汲みの老夫婦に宿を借ります。夫婦の求めに師長は琵琶を弾きますが、折しも村雨が降り出すと、老夫婦は屋根に苫（とま）を葺いて琵琶の音と雨音との調子を整えます。その心得に感心した師長は、夫婦にも一曲所望すると、神技とも思えるその演奏の素晴らしさに驚き、自分の未熟さを恥じ、入唐をやめて帰洛しようとします。老夫婦は、自分達は村上天皇と梨壺（なしつぼ）の女御の霊であり、師長に入唐を思い止まらせようと現れたのだと告げて、姿を消します。在りし日の姿で再び颯爽と現れた村上天皇は、龍神に命じて、龍宮に持ち去られた獅子丸という琵琶を取り寄せて師長に授け、共に秘曲を奏で、帝の霊は天上界へ、師長は都へと帰って行くのでした。

番組

お話
須磨の浦に去来するもの　（三十分）
林　望（作家・国文学者）

仕舞（観世流）
敦盛（あつもり）　クセ
坂　賀子

松風（まつかぜ）
観世　喜之

須磨源氏（すまげんじ）
観世　喜正

狂言（和泉流）
薩摩守（さつまのかみ）

船頭	野村　万作
僧	野村　萬斎
アド	深田　博治
後見	野村　裕基

能（観世流）
玄象（げんじょう）

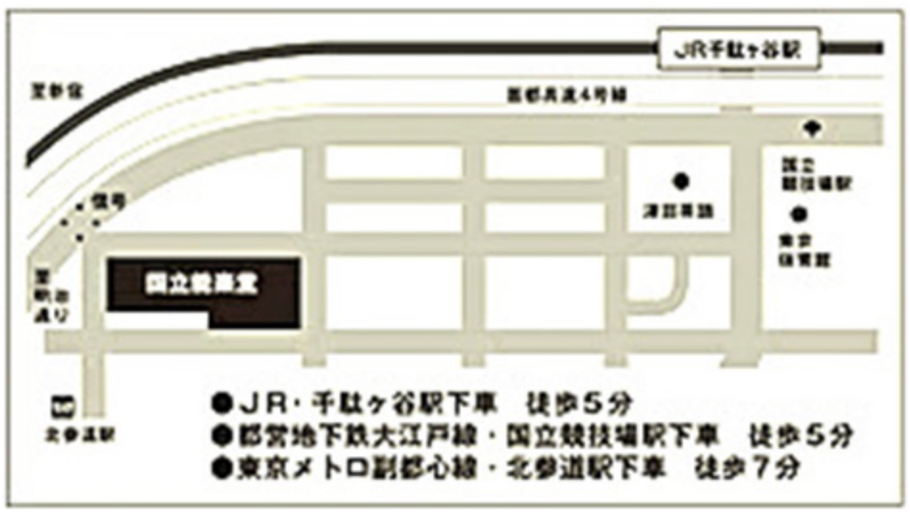
シテ	坂　真太郎
師長	武田　文志
従	佐久間二郎
龍神	坂　暁子
ワキ	福王　和幸
ワキツレ	村瀬　慧
ワキツレ	矢野　昌平
アイ	高野　和憲
笛	杉　信太朗
小鼓	飯田　清一
大鼓	亀井　広忠
太鼓	林　雄一郎
地頭	観世　喜正
主後見	奥川　恒治

終演予定　午後4時

上演中の撮影・録音は固くお断り致します。実演芸術のご入場はご決意頂けますよう、お願い申し上げます。やむを得ぬ事情により、出演者、演目等に変更が生じる場合は何卒ご了承下さい。

坂　真太郎（ばん　しんたろう）

能楽師シテ方観世流。昭和47年生。故坂 真次郎の長男。三世 観世喜之師に師事。公益社団法人観世九皐会会員。公益社団法人 能楽協会 東京支部常議員。一般社団法人 日本能楽会会員（重要無形文化財能楽総合保持者）。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。安宅賞を受賞。昭和50年の初舞台以来、これまでに「石橋」「賀々良」「道成寺」「望月」「安宅」「翁」等を披演。平成15年 皇居・桃華楽堂で御前演奏。台東区アートアドバイザー・たいとう観光大使。



令和7年 10月4日（土） 午後1時開演（正午開場）

千駄ヶ谷 国立能楽堂 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1

入場料（全席指定・税込）

正　面	：	8,500円
脇・中正面	：	6,000円
学生GB席	：	2,500円

前売開始 7月24日(木)

入場券のお求めは主催者または下記へ

カンフェティ

WEB予約　http://confetti-web.com/@/shinsokai_2025

電話予約　050-3092-0051　カンフェティチケットセンター（受付時間 平日10:00~17:00）

主催
眞双会
〒110-0003
東京都台東区根岸5-11-5
TEL 03-3873-5404
FAX 03-3873-5635
https://shinnohsho.net/
info_shinnoh@yahoo.co.jp
郵便振替口座 00160-9-606000 眞双会

この国の佳き伝統とともに
宮本卯之助

株式会社 宮本卯之助商店
創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売
www.miyamoto-unosuke.co.jp

Design: 島本直尚